

株 主 の 皆 様 へ

第 **110** 期
中間報告書

2021年4月1日～2021年9月30日

 **山陽特殊製鋼株式会社**

証券コード | 5481

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第110期第2四半期(2021年4月1日から2021年9月30日まで)の営業の概況等をご報告申し上げます。

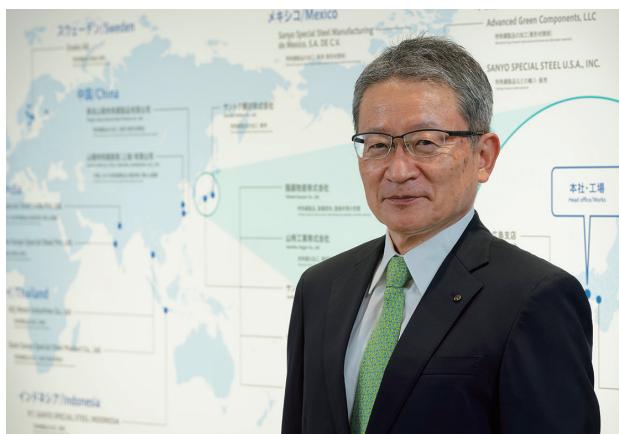
営業の概況

当第2四半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きで推移しました。景気の先行きにつきましては、感染対策の徹底やワクチン接種の進行、各種政策の効果などにより、持ち直していくことが期待されますが、国内外の感染症の動向を注視する必要があるなど不透明な状況にあります。

特殊鋼業界におきましては、自動車、産業機械、建設機械などの主要需要業界の回復により、熱間圧延鋼材の生産量は、前年同期を上回りましたが、半導体不足や東南アジアの新型コロナウイルス感染症拡大にともなう部品不足による自動車減産の影響が現出し始めております。

経営成績といたしましては、当社グループの売上高は、売上数量の増加やスウェーデンの連結子会社Ovakoの決算期変更影響などにより、前年同期比861億32百万円増の1,832億94百万円となりました。利益面では、鉄スクラップ価格上昇の影響や緊急収益改善対策の終了による固定費の戻り等はありませんでしたが、売上数量の増加や数量増にともなう製造コストの低下、変動費コストダウン、グループ会社の収益改善などにより、経常利益は、前年同期比144億48百万円増の104億91百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比106億円増の72億90百万円となりました。

(注)本報告書に記載している業績予想等につきましては、策定時点において入手可能な情報に基づいて当社グループで判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績等はこれらの予想数値と異なる場合があることをお含みください。



代表取締役社長 宮本 勝弘

今後の見通し

今後の特殊鋼需要につきましては、半導体不足等による自動車減産の影響やそれにとまなうサプライチェーンでの在庫増減が現出することが予想されますが、産業機械、建設機械向けの需要が引き続き好調であることなどから、総じて安定的に推移するものとみられます。

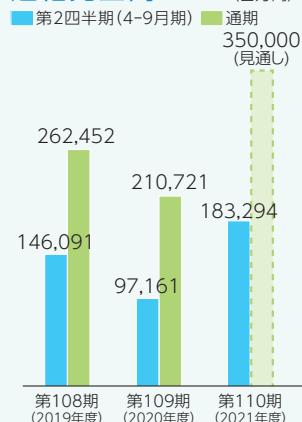
このたび、通期の連結業績予想と配当予想を3頁のとおり上方修正いたしました。今回の業績予想では、9月に公表しましたベース値上げを含む販売価格改善の効果を織り込んでおりますが、鉄スクラップや合金鉄、原油等の価格が足元でも上昇を継続しておりますため、今後の収益への影響を注視し、必要な対策を講じてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年11月

業績ハイライト・セグメント情報

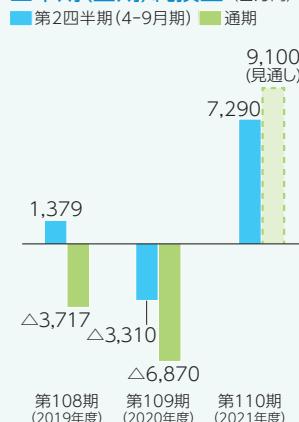
連結売上高



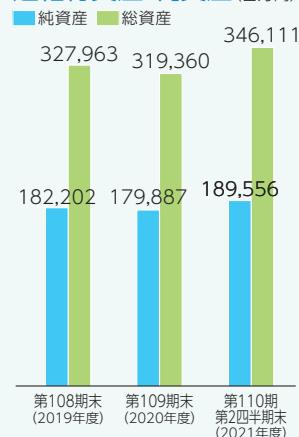
連結経常損益



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損益



連結総資産・純資産

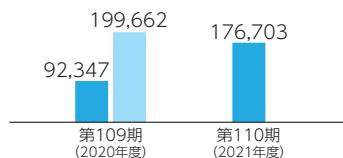


鋼材事業

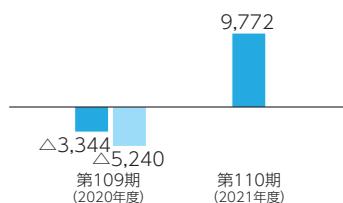
売上高 **1,767億3百万円**

営業利益 **97億72百万円**

○売上高
■第2四半期 ■通期 (単位:百万円)



○営業損益
■第2四半期 ■通期 (単位:百万円)



粉末事業

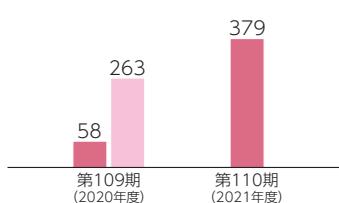
売上高 **21億82百万円**

営業利益 **3億79百万円**

○売上高
■第2四半期 ■通期 (単位:百万円)



○営業利益
■第2四半期 ■通期 (単位:百万円)



素形材事業

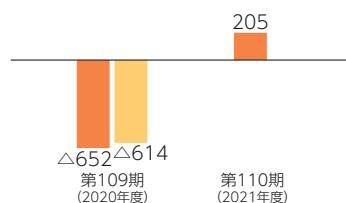
売上高 **88億99百万円**

営業利益 **2億5百万円**

○売上高
■第2四半期 ■通期 (単位:百万円)



○営業損益
■第2四半期 ■通期 (単位:百万円)



2021年度業績予想および配当予想について

業績予想

(単位：億円)

	今回予想 (2021年10月29日公表)	前回予想 (2021年7月30日公表)	増減
売上高	3,500	3,450	+50
営業利益	141	109	+32
経常利益	140	105	+35
内、当社単独	68	57	+11
内、Ovako ^(注1)	93	74	+19
内、MSSS ^(注2)	4	3	+1
内、のれん償却費 ^(注1)	△34	△33	-1
税後利益 ^(注3)	91	71	+20
のれん償却費を除く税後利益	125	104	+21

(注1) Ovako損益およびのれん償却費：決算期を従来の12月から3月へ変更したため2021年度予想は2021年1月～2022年3月の15ヵ月の数値(2021年度上期は1月～9月の9ヵ月、2021年度下期予想は10月～2022年3月の6ヵ月の数値)

(注2) MSSS損益：1月～12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

配当予想

(単位：円)

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想(2021年7月30日公表)	45.00	10.00	55.00
今回修正予想(2021年10月29日公表)		15.00	60.00
当期実績	45.00		
前期実績(2021年3月期)	0.00	0.00	0.00

前回予想値(2021年7月30日公表)に対し、第2四半期累計期間の実績が、鉄スクラップ価格が想定よりも低位で推移したことやスウェーデンの連結子会社のOvakoの販売構成の改善などにより、増益となったことに加え、下期の業績も、鉄スクラップ価格をはじめとする原燃料価格上昇影響はあるものの、ベース価格値上の実施やOvakoの数量増などにより、前回予想の想定に対し増益となる見込みとなったため、通期の業績予想および配当予想を修正いたします。

Ovako 業績

本社スウェーデンストックホルム。スウェーデン、フィンランドに工場を有する特殊鋼・鋼管・リング等の製造・販売会社。2019年3月完全子会社化。

2021年度の見通し

上期：経常利益68億円（前回予想比+12億円）

下期：経常利益24億円（前回予想比+6億円）

需要回復による販売数量の増加やマージン改善、収益改善効果等により、前回予想比増益となる見込みです。特に、夏季長期修繕のある7-9月での経常利益黒字化は同社初めてとなります。

引き続き、固定費および変動費削減に取り組むとともに、欧州の旺盛な特殊鋼需要を捕捉し、収益計画の達成を目指してまいります。

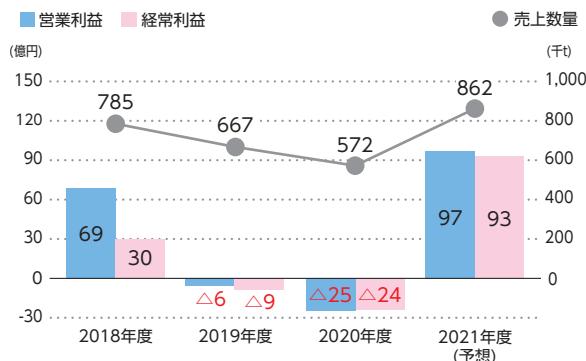
収益力の強化、サポート体制

■収益力の強化

- ▶ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準においても人員を抑制
- ▶変動費の削減、固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る

■3社連携によるシナジー効果の発揮

- ① 拡販活動の推進
- ② 操業支援によるコスト削減
- ③ 調達コストの削減



MSSS 業績

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd. 本社インドムンバイ。特殊鋼一貫製造・販売子会社。2018年6月子会社化。

2021年度の見通し

上期：経常利益2億円（前回予想比±0億円）

下期：経常利益3億円（前回予想比+2億円）

同社の第2四半期(4-6月)は、現地の酸素供給停止の影響を受けて販売数量が減少したものの、販売価格および品種構成の改善により、上期(1-6月)は黒字を確保いたしました。

下期(7-12月)については、7月の豪雨影響が残るものの、販売価格および品種構成の改善で増益を図るとともに、コスト競争力と営業力の強化により、拡大・高度化するインド市場でのポジションを高め、2021年度通期の黒字化を目指してまいります。

収益確保に向けた取り組み

■営業基盤・営業体制の強化

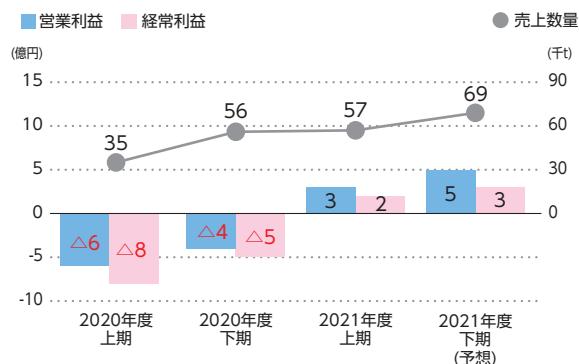
高纯净度技術を生かした営業戦略策定、拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善

■変動費の削減

エネルギー原単位改善や安価原料の有効活用による操業コスト・調達コストの削減

■固定費の削減

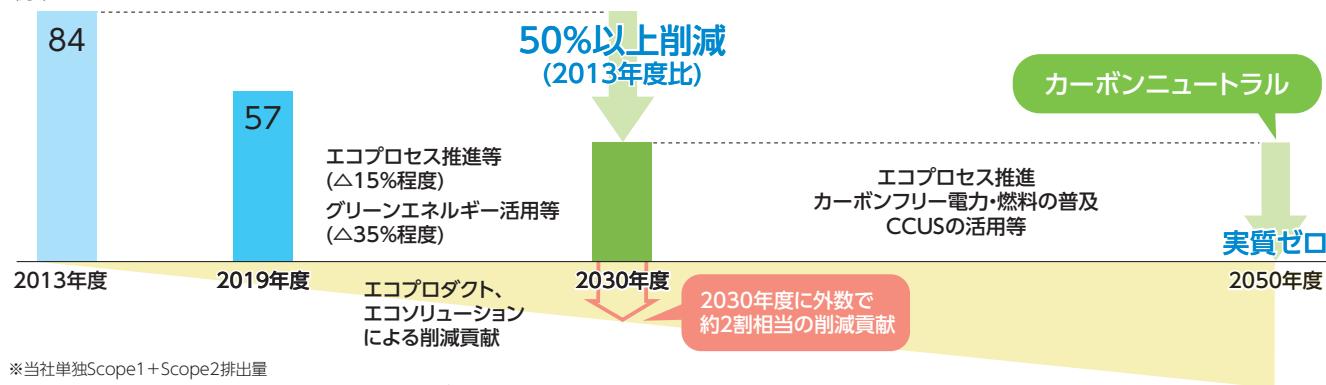
要員適正化を含む労務コストの削減



2050年カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

2050年に向けた当社のロードマップ

(万t)



エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管

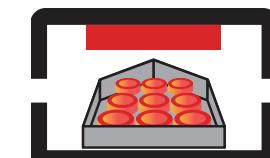


高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高韧性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減

- 当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力
- 当社の材料技術を活用したエコプロダクトの実装と一層の普及を図り、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献

欧州子会社Ovakoの取り組み

- 2020年 ○ 特殊鋼製造プロセスで排出するCO₂を2015年比55%削減
- 2020年 4月 ○ 世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功
- 2021年 6月 ○ カーボンフリー水素プラントの建設に着手
- 2022年 1月 ○ **カーボンニュートラルに移行 (2021年9月28日 公表)**
↓ 2022年1月から自社の製造プロセスにおけるCO₂排出を実質ゼロにする、カーボンニュートラル体制に移行

- カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量(Scope1+Scope2)を相殺
- 気候変動問題への取り組みや投資を促進するため、鋼材価格への気候サーチャージ制度導入に向けた対話を開始
- 自社製造プロセスでのCO₂排出削減も引き続き推進

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言へ賛同およびTCFD開示を実施

TCFD提言の趣旨およびパリ協定の長期目標達成に取り組む国際社会の状況等を踏まえ、気候変動が当社グループの事業活動に与える影響等に関する情報を統合報告書(山陽特殊製鋼レポート2021)で開示しています。

山陽特殊製鋼レポート2021はこちらからご覧いただけます

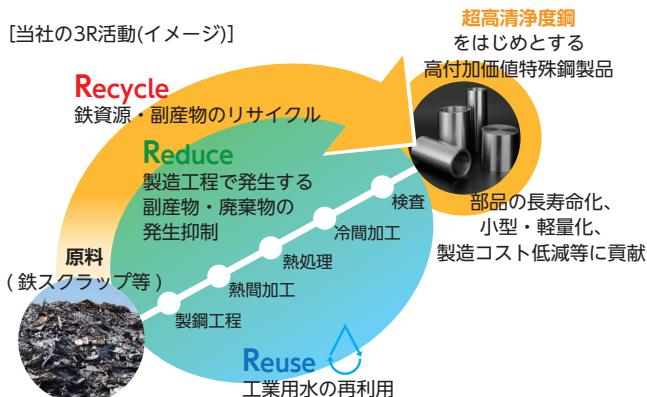


※TCFD:Task Force on Climate-related Financial Disclosures

主要国の中央銀行や金融規制当局が参加する金融安定理事会(FSB)によって設立されたタスクフォース。2017年6月に公表した最終報告書において、企業に対して、気候変動に起因するリスクと機会の財務的影響や具体的な対応・戦略を開示することを提言している。

資源循環技術・システム表彰で「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞

[当社の3R活動(イメージ)]



受賞テーマ

『電気炉による鉄スクラップ等鉄屑の高付加価値特殊鋼製品へのリサイクル』

鉄スクラップを主原料とした高付加価値な特殊鋼製品の開発・製造・提供の取り組みが、カーボンニュートラル社会の実現ならびに資源循環型社会の構築に貢献しうると評価されました。

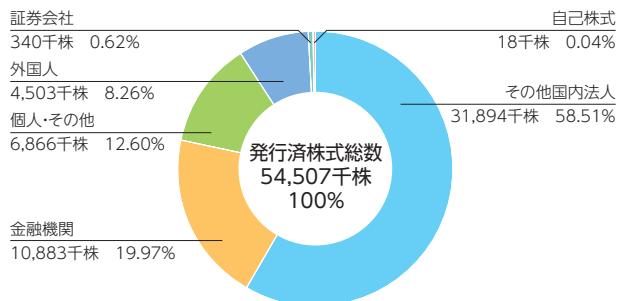
株 式 情 報

■ 株式の状況

2021年9月30日現在

発行可能株式総数…………… 94,878,400株
発行済株式の総数…………… 54,507,307株
株主数…………… 10,579名

株式の所有者別分布状況



■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月下旬
同基準日 3月31日
配当の基準日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
公告方法 電子公告
【アドレス】 www.sanyo-steel.co.jp/
事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、
日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所 東京(証券コード 5481)

大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本製鉄株式会社	28,863	53.07
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,531	6.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,192	5.87
山陽特殊製鋼共栄会	2,529	4.65
山陽特殊製鋼従業員持株会	793	1.46
株式会社三井住友銀行	639	1.18
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	621	1.14
株式会社三菱UFJ銀行	569	1.05
三井住友信託銀行株式会社	566	1.04
第一生命保険株式会社	487	0.90

※持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
(事務取扱場所) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(お問合せ先) 【フリーダイヤル】0120-782-031
受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)
(インターネットホームページURL) (よくあるご質問(FAQ))
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>  https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal 